

(簡易湯沸設備)

第8条 簡易湯沸設備の位置、構造及び管理の基準については、第3条（第1項第6号及び第10号から第15号まで、第2項第5号並びに第3項を除く。）の規定を準用する。（う）（か）（け）（ひ）

【解説】

本条は、瞬間湯沸器と称せられるものを主とする湯沸設備についての規定である。
 本条及び次条の湯沸設備は、貯湯部が大気開放されており、大気圧以上の圧力がかからない構造の設備をいう。なお、簡易湯沸設備と給湯湯沸設備の区分は、入力が12キロワット以下の湯沸設備を簡易湯沸設備とし、入力12キロワットを超える湯沸設備を給湯湯沸設備として区別している。

1 湯沸器の種類



図8-1 簡易湯沸設備の構造と各部の名称

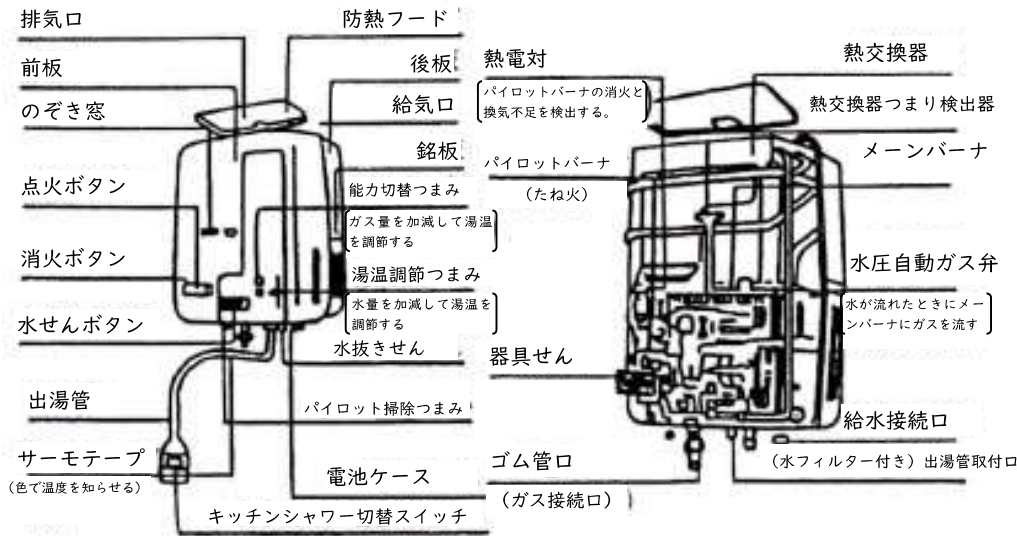
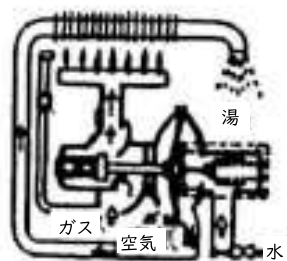
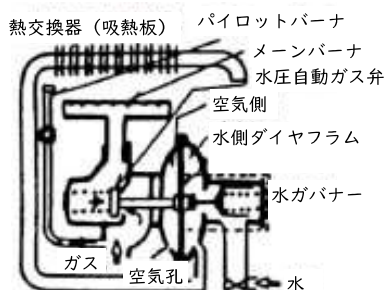


図8-2 ガス瞬間湯沸器の作動原理の例

① 元止め式

水せん閉の状態

水せん開の状態

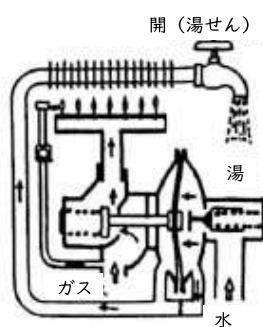
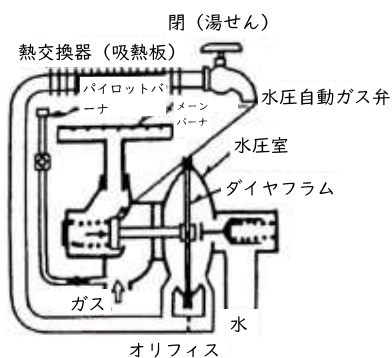


②

先止め式

湯せん閉の状態

湯せん開の状態



2 簡易湯沸設備の建築物等及び可燃性の物品からの離隔距離は、表8-1によること。

ただし、簡易湯沸設備が、（一財）日本ガス機器検査協会又は（一財）日本燃焼機器検査協会が定めた防火性能基準に適合したものについては、防火性能が確保され、安全性の高いものとなっていることから、当該設備等に貼付されているいずれかの協会名の認証ラベルに記載の離隔距離として差し支えない。

表8-1

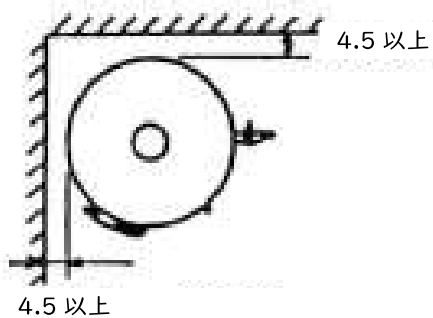
火気設備等又は火気器具等の種別							離隔距離（単位：センチメートル）						
							入力	上方	側方	前方	後方		
簡易湯沸設備	気体燃料	不燃以外	開放式	常圧貯蔵型	フードを付けない場合		7キロワット以下	40	4.5	4.5	4.5		
					フードを付ける場合		7キロワット以下	15	4.5	4.5	4.5		
				瞬間型	フードを付けない場合		12キロワット以下	40	4.5	4.5	4.5		
					フードを付ける場合		12キロワット以下	15	4.5	4.5	4.5		
			半密閉式					12キロワット以下	-	4.5	4.5	4.5	
			密閉式	常圧貯蔵型				12キロワット以下	4.5	4.5	4.5	4.5	
				瞬間型	調理台型				12キロワット以下	-	0	-	0
					壁掛け型・据置型				12キロワット以下	4.5	4.5	4.5	4.5
			屋外用	フードを付けない場合				12キロワット以下	60	15	15	15	
				フードを付ける場合				12キロワット以下	15	15	15	15	
		不燃	開放式	常圧貯蔵型	フードを付けない場合		7キロワット以下	30	4.5	-	4.5		
					フードを付ける場合		7キロワット以下	10	4.5	-	4.5		
				瞬間型	フードを付けない場合		12キロワット以下	30	4.5	-	4.5		
					フードを付ける場合		12キロワット以下	10	4.5	-	4.5		
			半密閉式					12キロワット以下	-	4.5	-	4.5	
			密閉式	常圧貯蔵型				12キロワット以下	4.5	4.5	-	4.5	
				瞬間型	調理台型				12キロワット以下	-	0	-	0
					壁掛け型・据置型				12キロワット以下	4.5	4.5	-	4.5
	屋外用		フードを付けない場合				12キロワット以下	30	4.5	-	4.5		
			フードを付ける場合				12キロワット以下	10	4.5	-	4.5		
	液体燃料	不燃以外					12キロワット以下	40	4.5	15	4.5		
		不燃					12キロワット以下	20	1.5	-	1.5		

<設置例>

図8-3 簡易湯沸設備（気体燃料を使用するもの）と建築物等の離隔距離（センチメートル）（（ ）内は、不燃材料で有効に仕上げをした建築物等の部分又は防熱板である場合の離隔距離を示す。以下同じ。

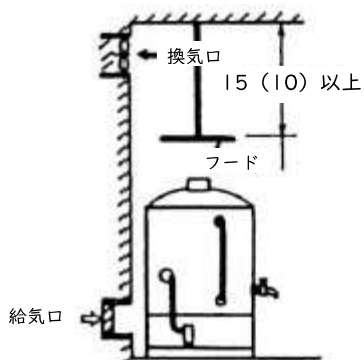
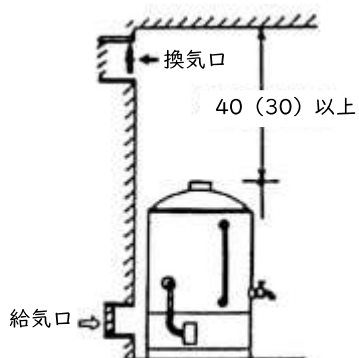
① 開放式・常圧貯蔵型（7キロワット以下）

平面



フードをつけない場合

フードをつける場合



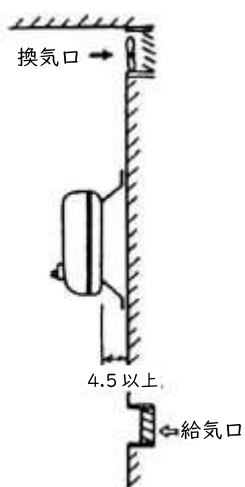
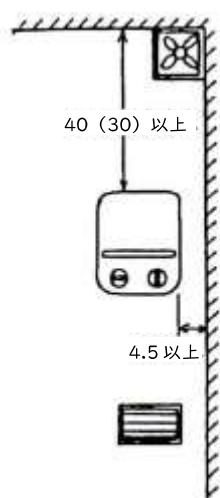
※（ ）内は、防熱板を取り付けた場合の寸法とする。

② 開放式・瞬間型（12キロワット以下）

フードをつけない場合

正面

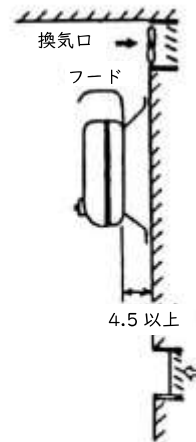
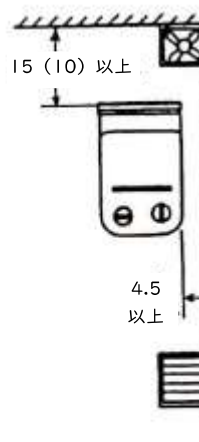
側面



フードをつける場合

正面

側面



※（ ）内は、防熱板を取り付けた場合の寸法とする。

③ 半密閉式（12キロワット以下）

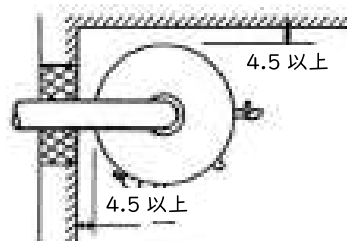
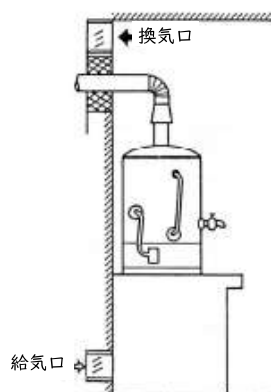
正面

側面

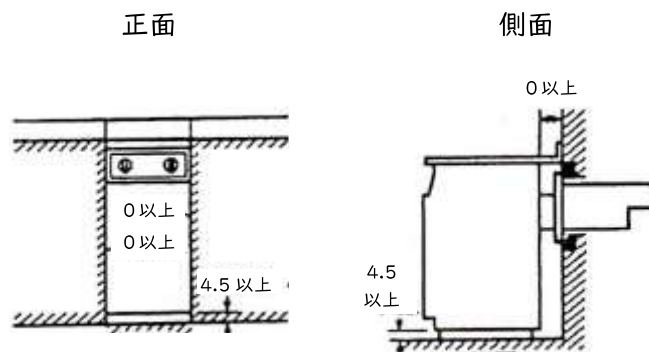


正面

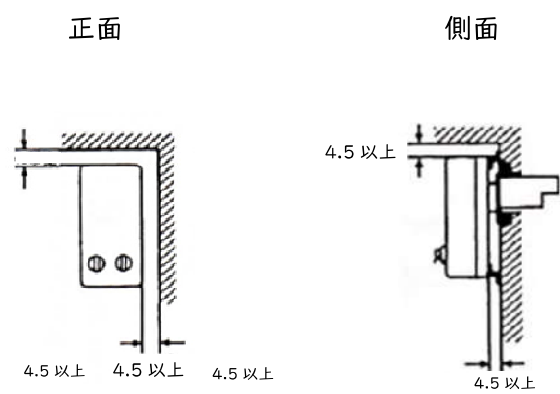
平面



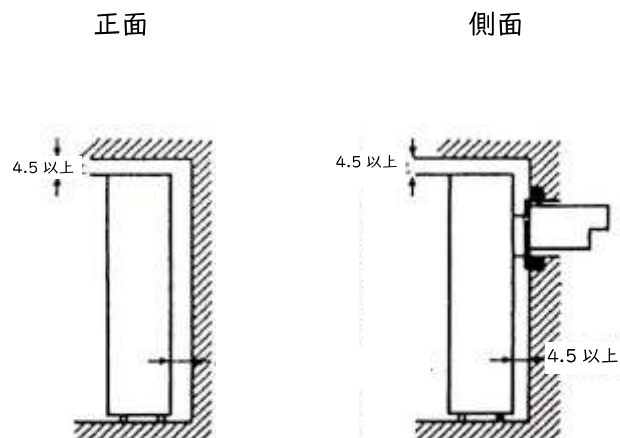
④ 密閉式・瞬間型（12キロワット以下で調理台型）



⑤ 密閉式・瞬間型（12キロワット以下で壁掛け型）



⑥ 密閉式・瞬間型（12キロワット以下で据置型）

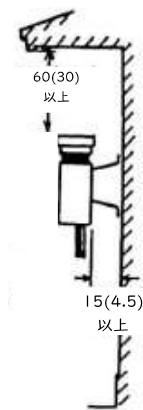
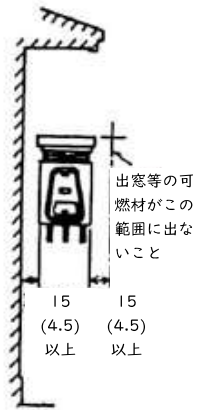


⑦ 屋外用（12キロワット以下）

フードをつけない場合

正面

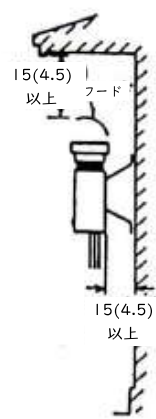
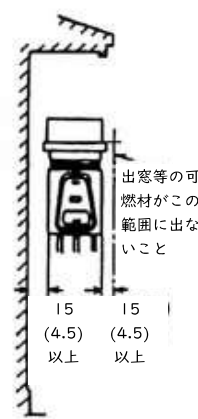
側面



フードをつける場合

正面

側面



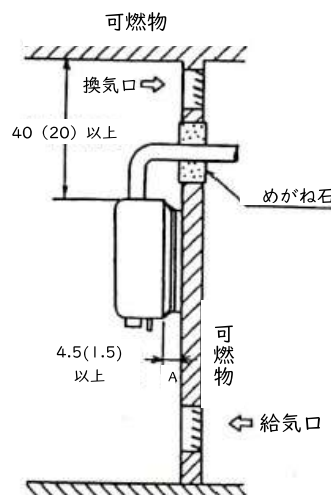
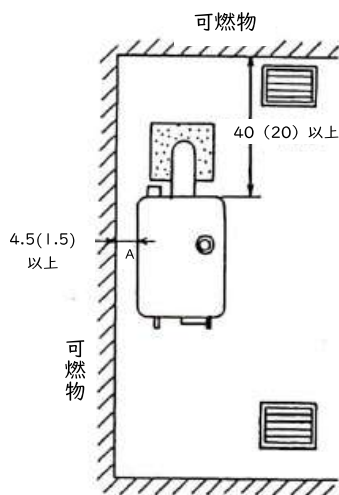
※（ ）内は、防熱板を取り付けた場合の寸法とする。

図8-4 簡易湯沸設備（液体燃料を使用するもの）と建築物等の離隔距離（センチメートル）

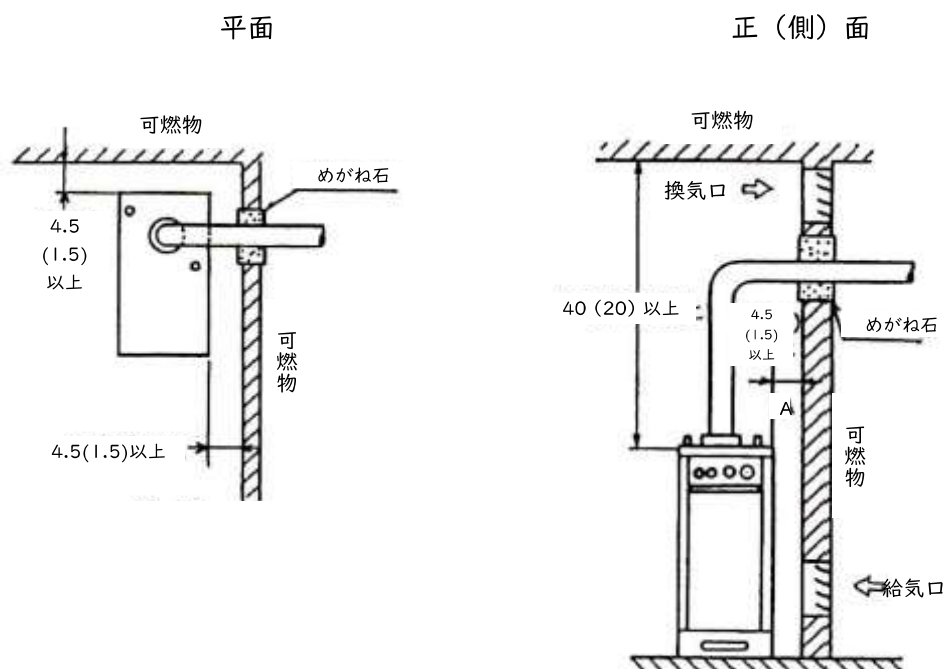
① 壁掛型

平面

側面



② 据置型



(注) () 内は、防熱板を取り付けた寸法を示す。A寸法は、基準では45センチメートル以上と規定しているが、煙突と可燃物との離隔距離でも規制される。

3 本条について

第3条の炉の位置、構造及び管理についての規定が、同条第1項第6号及び第10号から第15号まで、第2項第5号並びに第3項を除いて、簡易湯沸設備に準用されることを規定している。このうち、第3条第1項第18号の規定の準用については、内部の燃焼状況が見えるようにすることは必要であるが、配管については、熱の伝導その他による火災危険のおそれのない場合においては、必ずしも金属管によることを要しない。